

100号になりました

私の拙い「塾頭通信」にお付き合いいただいている皆さんに、心から感謝いたします。

事務局長の鈴木先生から、塾頭の思いをメッセージとして発信すべきであると、半ばおだてられ、半ば脅されて書き始めた「塾頭通信」でしたが、「毎日読んでいるよ」という数少ない読者の声に押されながら、2月20日の第1号以来、何とか100号の節目を迎えることが出来ました。

ある人が私にいいました、「何時になったら息切れするのかなと思いながら読んでいる」と。実は、その事は私が一番感じていることです。

お休みの日以外は毎日書こうというのは、誰から強制された訳でもない、自分で自分に課した課題ですが、書き続けている内に「止めるに止められない」心境になっています。

朝起きてから寝るまで、絶えず、何か書く材料はないか、ネタ探しをしている自分に気付き、内心苦笑しています。

読者の一人である私の妻から「くすっと笑えるようなのが良い」と注文されるのですが、私の性格もあって、どうしても重たいテーマが多いように思います。特に、3・11の東日本大震災から受けた影響には大きなものがありました。

ともすれば、激しい世の中の変化に押し流されてしまいがちですが、塾頭通信を書き始めてから目線が変わってきたように思います。今は、小さな声に耳をそばだてよう、陰に隠れているものを見逃さないようにしようという気持ちでいっぱいです。

日々の暮らしの中で、書きたいことや書いておかなければならないと覚えることが沢山ありますが、しかし情けないかな、自分に力が無くて書けないという現実にも直面しています。今更ながら、自分の勉強不足に反省することしきりではありますが、同時に、等身大の自分を見ていただきたいとも思っています。

今後も塾頭通信を書き続けるためには、生涯学習しかないと自覚していますし、学びながら書き続けることに徹しようと思っています。

これからも、駄文に駄文を重ねていくに違いありませんが、皆様には、引き続きお付き合い下されば、これにすぐる喜びはありません。(塾頭 吉田 洋一)